

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24710287

研究課題名(和文)現代アラビア語の変容に関する実証的研究

研究課題名(英文)An Empirical Study on Language Variation and Change in Modern Arabic

研究代表者

竹田 敏之(Takeda, Toshiyuki)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特任研究員

研究者番号：40588894

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、アラブ世界における言語文化・社会の発展や政治変動にともなう現代アラビア語の変容の実態を明らかにすることを目指した。研究計画に基づき、現代語の規範整備を担うアラビア語アカデミーに関する臨地調査(フィールドワーク)と、新聞・雑誌、専門用語辞典などを対象とした新語や現代用法の分析と検討を行った。その結果、道具名詞や場所名詞、ハムザの綴字法などを事例に、現代語の傾向と特徴が明らかになった。また、データ集積・分析の結果をアラビア語教材開発へ応用し、一般向けのテキストや大学院・研究者向けの語彙集・単語帳という形で刊行することが可能となった。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the current state of the Arabic language and the features of its growth and development in the current era in which the socio-political situations started changing drastically. Based on the research plan, I conducted field researches on Arabic language academies which aim to develop and regulate Arabic while preserving the purity of the language. And I also collected data of new terms and newly-coined expressions used in newspapers and magazines and dictionaries in order to analyze them from a lexical and morphological point of view. As a result, some features and trends of the contemporary usage of modern Arabic were pointed out with examples of nouns of instrument and nouns of place, and rules for writing the hamza. In addition, this study by applying the results of data collection and analysis led to publish a text book for the Japanese and compile a concise Arabic dictionary especially for the graduate students and researchers who need to acquire Arabic.

研究分野：地域研究

キーワード：アラビア語 アラブ諸国 アラビア語アカデミー 文法学 モーリタニア イスラーム復興 イスラーム地域研究

### 1. 研究開始当初の背景

アラビア語は現在 22 ヶ国におよぶアラブ諸国の公用語(国語)であり、中東・北アフリカを中心に地域の共通語として広く用いられている。報告者はこれまで、オスマン朝終焉の後、アラブ地域が国民国家として編成される過程で、20 世紀中葉を中心にアラビア語が大きく民族語化していく流れを、その歴史的背景となる政治社会の変化とともに明らかにしてきた。民族語としてのアラビア語は、メディアの発達や文法改革、専門用語の整備、語彙の豊潤化などを経て、時代の要請に対応しうる「現代アラビア語」として成立し発展してきた。

こうした現代化の一端を担ったのが、アラビア語の規範整備と研究を行う学術機関の「アラビア語アカデミー」である。しかし、アカデミーの活動の展開と言語変容の関係については、これまで不明な点が多かった。さらに、各国の教育省やアラブ諸国に複数存在するアラビア語アカデミーが独自の政策や指針を打ち出す中で、同地域の共通語である現代アラビア語が国別に分裂の傾向にあるのか、あるいはアラブ地域で融合・統一へ向かっているのか、現代アラビア語の変容と関わるこの重要な問題については、研究の空白領域となっている。

現代アラビア語の実態解明には、各国アカデミーの活動を結ぶ学術ネットワークの調査をはじめ、イスラーム復興運動の流れと伝統的アラビア語教育の普及との関係や、印刷メディア・インターネットを含めた実際の言語使用の分析など、検討を必要とする事項が多い。さらに昨今のアラブ諸国に連鎖する民主化運動の動向は、同地域における言語政策と国語教育の将来、言語使用における表現形式や言語の規範意識の変化にも大きな影響を与えていると考えられる。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、情報・通信技術の急速な発展やアラブの民主化革命といった政治社会の変動の中、大きく変容している現代アラビア語の実態を、言語の規範整備を担うアラビア語アカデミーに関する調査と、新語や現代的用法の収集・分析によって明らかにすることである。

具体的には、以下の3点を明らかにすることを目指す。

(1) アラブ諸国の新聞・雑誌、印刷物や学習辞典・専門用語集を対象に、事例を収集・分析することで、新語や表現用法の変容の実態を明らかにする。

(2) アラブ諸国のアラビア語アカデミーの活動とその学術ネットワークについて明らかにする。

(3) イスラーム復興の流れにともない再活性化・大衆化する伝統的アラビア語学習の実態を明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究は、現代語としてのアラビア語の変容を言語社会的な視点から、かつ実証的に考察するために、地域研究の手法に基づく臨地調査(フィールドワーク)と、印刷メディアを対象とした新語や専門用語に関する事例・用例の抽出・分析作業を主軸とするものである。

より具体的には、以下の事項を中心に調査・検討を行う。

(1) 現代アラビア語の使用実態を把握するために、昨今の民主化革命の時期あるいはその後に行われた新聞や雑誌、印刷物を対象に、話しことばの混在や外来語使用などに注目しながら、現代的な表現形態および新語に関する事例の抽出作業を行う。

(2) アラブ諸国に複数存在するアラビア語アカデミーの活動実態の調査と、刊行物の収集を行う。特に、専門用語の辞書類や学校教育を目的としたアラビア語辞書(学習用の国語辞典に相当)を国別に比較することで、現代アラビア語の地域差に関する検討を進める。

(3) アラビア語の現代化と規範意識の変容とは対峙する流れとして、イスラーム復興運動の隆盛とともに広がりを見せる伝統的アラビア語教育について、その普及の実態を明らかにする。特に各国で人気を博している伝統的文法書(その一例としては13世紀の文法家イブン・マールイクの『千行詩』や、イブン・アージュッルームの文法綱要『アージュッルーミーヤ』など)に注目し、アラブ諸国における校訂出版の現況と教育現場におけるテキスト使用の実態を明らかにする。

(4) 上記のデータ集積と分析の結果を、語彙集・単語帳としてまとめる。また、その成果をアラビア語文法書の内容や構成に反映させることで、日本におけるアラビア語教育に資する形での新たな教材作成・教科書の刊行へと発展させる。

### 4. 研究成果

本研究では、臨地調査と用例データの収集・分析を通じ、現代アラビア語の変容とそれを取り巻く言語社会について、おもに次の事項を明らかにした。

(1) 臨地調査で収集したアラブ諸国の新聞・雑誌、印刷物を対象に、新語と外来語に関する用例の収集と分析を進めた。その結果について、外来語の受容が盛んであった文芸復興期の事例を参照点としながら考察し、現代アラビア語における新語生成の仕組みについて明らかにした。また、先の素材を活用して精選した用例データを応用し、日本にお

けるアラビア語学習者に適した例文の作成および正書法規則（特にハムザの綴字法に関するルール）に関する考察・検討を進めた。その成果を盛り込む形で文法書『アラビア語表現とことんトレーニング』を完成させ刊行した。

（２）アラブ諸国におけるアラビア語研究機関・調整機関（アラビア語アカデミーなど）について、エジプト（カイロ・アラビア語アカデミー、学術アカデミー統一連合）、チュニジア（文芸学術アカデミー、アラブ教育文化学術機構）、モロッコ（タアリーブ研究センター、フェズ専門用語研究所）、スーダン（ハルツーム・アラビア語アカデミー）、クウェート（アラブ連盟付属「医学アラビア語化センター（ACMLS）」）を対象に臨地調査を行うことで、各機関の活動内容や刊行物・辞書類の出版状況をより具体的な形で把握することが可能となった。また、収集した各国アカデミーによる監修の学習辞典を対象に「道具名詞」に焦点を当てながら収録語を分析し、現代辞書の特徴と現代アラビア語の地域差について実証的に明らかにした。

（３）イスラーム復興にともなう伝統的文法教育の普及と現代アラビア語への影響について、モーリタニアにおける「マフダラ教育（伝統的イスラーム私塾、クルアーン学校）」を対象に臨地調査を行い、同国における文法教科書の変遷とアラビア語教育の実態について明らかにした。また、同地域を出自とするイスラーム知識人・学者（「シンキーティ知識人」）の東アラブ地域（マシュリク）における知的活動の広がり注目し、特にエジプトと湾岸諸国（サウディアラビア、クウェート）を事例にその現代的展開とアラビア語学への影響について学会発表および雑誌論文としてまとめ公表した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

「アラビア語正書法の成立」竹田敏之、『イスラーム 書物の歴史』小杉泰・林佳世子編，名古屋大学出版，2014年6月，46-65頁。

「アラビア書道の流派と書家たち」竹田敏之、『イスラーム 書物の歴史』小杉泰・林佳世子編，名古屋大学出版，2014年6月，136-156頁。

「現代モーリタニアにおけるアラブ・イスラーム文化の諸相」竹田敏之、『イスラーム世界研究』第7号，2014年3月，276-297頁。（査読有り）

[www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/pdf/kb7/19ja\\_take\\_da.pdf](http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/pdf/kb7/19ja_take_da.pdf)

Juhud Ruwwad al-Nahda wa al-Majami al-Lughawiya fi Ihya al-Lugha al-Arabiya wa Tahdith-ha fi al-Alam al-Arabi al-Hadith, Toshiyuki Takeda, *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies*, Vol.5, Number 1-2, February 2012, pp.33-43.(Arabic Part) (アラビア語による論文「アラビア語の復興と現代化：アラブ文芸復興期における知識人とアラビア語アカデミーの貢献」)(査読有り)  
[http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/pdf/kb5\\_1and2/26takeda.pdf](http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/pdf/kb5_1and2/26takeda.pdf)

〔学会発表〕（計6件）

“Modern Developments of Arabic as a Language of Islamic Civilization”(「文明語としてのアラビア語の現代的発展」)(ポスター発表，使用言語：英語)国際ワークショップ，5th International Symposium on Islam, Civilization, and Science: Islam as a Basis for Civilizational Thought and Development，於京都大学稲盛財団記念館，2014年6月1日。

「モーリタニアにおけるアラブ・イスラーム諸学と広域知識人ネットワーク」日本中東学会第30回年次大会，於東京国際大学，2014年5月11日。

「モーリタニアにおけるアラブ・イスラーム文化」平成25年度～平成30年度科学研究費・基盤研究(A):「グローバル化時代に対応する21世紀型イスラーム学の構築」(研究代表者：小杉泰)第2回研究会，於京都大学，2013年7月2日。

「イスラーム復興と現代アラビア語の展開 ハムザの表記をめぐる論争とその政治社会的背景」日本中東学会第29回年次大会，於大阪大学，2013年5月12日。

“Arabic Language and Cultural Movements in the Modern Arab World: A Survey of Linguistic and Social Aspects of Lexical Development”，国際ワークショップ The Iraqi-Japanese International Workshop at Kyoto University “Japanese and Iraqi Studies in two Perspectives”，於京都大学，2012年5月18日。

「現代アラブ世界におけるアラビア語辞典の展開 辞書編纂の伝統と革新」日本中東学会第28回年次大会，於東洋大学，2012年5月13日。

〔図書〕（計2件）

『アラビア語表現とことんトレーニング』(単著)竹田敏之，白水社，2013年11月。197頁

『京大式 実践基礎単語 1300』《KIAS 地域

言語シリーズ》(共著)小杉泰・岡本多平・  
竹田敏之, 京都大学アジア・アフリカ地域研究  
研究科・グローバル地域研究専攻, 附属イ  
スラーム地域研究センター(KIAS), 若手研  
究者インターナショナル・トレーニング・プ  
ログラム(ITP), 2012年9月. 60頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

竹田 敏之 (TAKEDA, Toshiyuki)

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究  
研究科 特任研究員

研究者番号: 40588894

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号: